

学校法人常葉大学の長期ビジョン・中長期計画等

学園の長期ビジョン

『地域と連携し、地域創生に貢献する』

(趣旨) 本学園は、地域や地域の人々と手を携え、魅力あふれた持続的な社会づくりに貢献する。

各学校における中・長期計画

常葉大学

■長期ビジョン

「地域を支える中核的な人材の育成」と「社会の未来を拓く大学づくり」を目標とし、循環型教育システムの構築を目指して以下のとおり取り組む。

1. 学園が設置する初等・中等・高等教育機関との連携を図り、大学における教育研究を踏まえ、将来にわたって学び続け自己実現ができる人材を養成する。
2. 地域経済の活性化や地域コミュニティの復活など、地域社会が求める素養と能力を兼ね備えた人材を養成することにより、地域社会の発展や活性化に貢献する。
3. 多様な教育研究分野を持つ総合大学としての特色などを活かし、地域社会、地方自治体、地元産業界などとの連携を図り、地（知）の拠点施設としての大学を確立する。
4. 質の高い教育と特色ある研究を推進する教育研究基盤を確立し、学生満足度が得られるような教育研究を展開するとともに、社会のダイナミックな変化に対応することができる組織体制を整備する。
5. 学長のリーダーシップのもと、大学を取り巻く社会構造の変遷を見据えた大学改革に積極的に取り組む。

■中期計画

1. 期間
平成28年度～令和5年度
2. 計画の骨子
 - (1) 大学運営のための組織体制の整備（学長のリーダーシップのもとでの確かな大学運営を行う体制を整備する）
 - ① 少子・高齢化や国際化などの社会の変化やニーズに的確に対応した教育研究組織を確立する。
 - ② 大学に必要な研究、広報、社会連携、国際交流、情報、施設管理、IR機能などの組織体制を整備する。
 - (2) 教育の質を保証するための抜本的なカリキュラム改善
教育課程の再編成及び授業方法等の改善などを実施するとともに、教育実施体制の充実を図る。
 - (3) 各種基本方針に基づく具体的方策の実施
 - ① 研究推進基本方針、地域連携・交流推進基本方針、国際交流に関する基本方針、高大連携事業基本方針に基づき、それぞれの方針に沿った各種事業を推進する。

- ② 新たに広報戦略（計画）、施設整備の長寿命化計画、情報システムの更新計画・セキュリティ対策・安全管理の確保計画などを策定し、計画的な整備を実施する。
- (4) 少子化に対応した学生確保対策と入試改革の実施
 - ① 平成30（2018）年度から再び減少に転ずる18歳人口に対応した学生確保対策を推進する。
 - ② アドミッションポリシーに対応した入試選抜制度を検討し、入試改革を実施する。
- (5) 学生の満足度向上を図るための各種支援
 - 学習環境・学習支援体制の整備、キャリア形成への支援、学生生活への支援などを充実する。
- (6) 教育研究組織のあり方の検討
 - 将来に向けての学部・学科再編計画等について検討を進める。

■附属高校との高大連携計画

- 1. 教育における連携
 - (1) 連携を深める第一歩としての高校・大学間の情報共有と相互理解
 - (2) 高校及び大学の人材の相互活用
- 2. 学生・生徒募集における連携
 - (1) 高校の大学附属化に伴う具体的なメリットの明示
 - (2) 附属高校から大学への進学実績のより一層の向上

常葉大学短期大学部

■中期計画

- 1. 期間
 - 平成28年度～令和2年度
- 2. 計画の骨子
 - (1) 学科再編計画に基づき、学科再編の進行を視野に入れた大学運営を行う。
 - (2) 少子・高齢化や国際化などの社会の変化や地域のニーズに的確に対応した教育組織の構築を図り、各種規程などの見直しを行う。
 - (3) 常葉大学との連携をより深めることで、リカレント教育、国際交流、地域貢献などを含む幅広い教育活動ができる環境整備を図る。
 - (4) 短期大学部の独自性を明示しうる3つのポリシー（AP、CP、DP）を定め、教育の質を保証するため、教養教育科目を含むカリキュラム改正を実施する。
 - (5) 常葉大学との共存（棲み分け）に配慮したアドミッションポリシー（AP）を定め、これに対応した入試改革を実行し、少子化に対応した学生確保対策を講ずる。
 - (6) 短期大学部に必要な研究、広報、社会連携、国際交流、情報などの組織体制を維持・継続する。
 - (7) 学生の満足度向上を図るため、学習環境・学習支援体制、キャリア形成への支援、学生生活への支援を充実する。

■長期計画

- 1. 期間
 - 令和3年度～令和7年度
- 2. 計画の骨子
 - (1) 地域社会において、身近な高等教育の機会を提供する。

- (2) 教育・研究の質の向上を目指し、常葉大学との連携に取り組む。
- (3) 常葉大学と一体となり学生支援を充実させ、学生満足度の向上を図る。
- (4) 常葉大学とともに地域社会との連携を図り、地（知）の拠点施設として地方創生に貢献する。
- (5) 学長のリーダーシップのもと、社会構造の変遷を見据えた大学改革に積極的に取り組む。

■附属高校との高大連携計画

1. 教育における連携
 - (1) 連携を深める第一歩としての高校・短期大学部間の情報共有と相互理解
 - (2) 高校及び短期大学の人材の相互活用
2. 学生・生徒募集における連携
 - (1) 高校の大学附属化に伴う具体的なメリットの明示
 - (2) 附属高校から短期大学部への進学実績の向上

常葉大学附属常葉中学校・高等学校

■中期計画

1. 期間
 - 平成28年度～令和2年度
2. 計画の骨子
 - (1) コース別・系統別の特色を生かし、国際社会で活躍する能力・資質や幅広い視野を身に付けさせ、看護・医療・保育等の進路に進んで行くために必要な能力・資質を育む。
 - (2) 過半数の生徒が常葉大学・短期大学部に進学できるよう努めるとともに、学業のみならず、部活動、生徒会活動、ボランティア活動などの諸活動においてもリーダーとして活躍できる能力・資質を育む。
 - (3) 新しい学力観や新しい試験に対応する学力を身に付けることができるように、不断の授業改善に取り組む。特に、国際社会で活躍できるコミュニケーション能力の育成に取り組む。
 - (4) 生活指導を重視し、教職員が一丸となって指導と支援に取り組むとともに、「安全・安心」を大切に、防災や危機管理意識向上に関する指導を充実する。
 - (5) PTA、母の会、同窓会、地域住民に対し様々な情報を発信して本校に関心を持ってもらい、より良い学校づくりのパートナーになってもらえるよう努める。
 - (6) 常葉大学・同短期大学部との連携を柱に中高の生徒募集を行い、定員確保をめざす。

■長期計画

1. 期間
 - 令和3年度～令和7年度
2. 計画の骨子
 - (1) 学園内の小中、中高、高大の教育分野・募集分野での連携強化を図る。
 - (2) それぞれの地域で地域貢献の推進を図る。
 - (3) それぞれの特色ある教育の推進を図る。
 - (4) 募集活動の強化を図る。
 - (5) 常葉大学・短期大学部との進学連携の強化を図る
 - (6) コストの削減を図る。

■常葉大学・常葉大学短期大学部との高大連携方針

1. 教育における連携

- (1) 連携を深める第一歩としての高校・大学（短期大学部含む。以下同じ）間の情報共有と相互理解
- (2) 高校及び大学の人材の相互活用

2. 学生・生徒募集における連携

- (1) 高校の大学附属化に伴う具体的なメリットの明示
- (2) 附属高校から大学への進学実績の向上

■中高一貫教育指導方針

1. 中高一貫指導の教育目的

中学校教育の土台に立って、社会で活躍できる女性としての能力・資質を身に付けさせる。

2. 中高一貫を念頭に置いた教育目標

- (1) 主体的に学習に取り組む姿勢や、良識ある行動と協調性を身に付けさせる。
- (2) 英語教育に重点を置き、コミュニケーション能力の育成を図る。
- (3) 女性として身に付けるべき礼儀作法や人間関係づくりのスキルを身に付けさせたり、将来の職業につくための人間的な土台を形成する。
- (4) 中学校の英語教育の成果の上に立って、高校のグローバルスタディーズ（以下GS）コースに毎年10人程度の生徒を進学させ、さらに深化したコミュニケーション能力の育成を目指すとともに、広く国際社会に関心を持ち世界の人々と友好関係を築ける資質や能力を身に付けさせる。
- (5) 中学校での総合学習の時間をさらに深化させて、総合進学コースの4つの系統（保育・看護・医療・総合文科系）につなげ、将来のキャリア形成に資する専門的・実践的な事柄を学ばせる。

■中学校と橘小学校との小中連携方針

1. 小学校の教育目標や教育内容（特色教育を含む）について、中学・高校が十分に理解した上で、小学校の水準をさらに高め、発展させていくための9年間もしくは12年間を見通したカリキュラムを用意する。
2. 授業・研修・行事等を中心に教員の交流を図る。
3. 児童・保護者のニーズを慎重に検討し、学園内進学の特典や小中連携の良さを知らせる。

常葉大学附属橘中学校・高等学校

■中期計画

1. 期間

平成28年度～令和2年度

2. 計画の骨子

- (1) 教員の資質向上を図る。
- (2) 授業改善による学力の向上を図り、生徒自らが進んで学習する学びの姿勢を確立する。
- (3) 教員自身が進路指導への学習の機会を深める。
- (4) 生徒指導を充実させ、落ち着いた学校生活をつくり出す。
- (5) 学校行事を見直し、生徒の感性を揺さぶり、視野を広める機会をつくる。
- (6) 新校舎、グラウンドの完成にともない、環境美化、公共物を大切にする指導を行う。
- (7) 人間教育を大切にしたい部活動の在り方を重視する。

- (8) 防災教育を徹底する。
- (9) 夢広がる中学校へと改革を図る。
- (10) 新校舎完成と常葉大学との連携を柱に中高の生徒募集を行い、定員確保をめざす。

■長期計画

1. 期間
令和3年度～令和7年度
2. 計画の骨子
 - (1) 学園内の小中、中高、高大の教育分野・募集分野での連携強化を図る。
 - (2) それぞれの地域で地域貢献の推進を図る。
 - (3) それぞれの特色ある教育の推進を図る。
 - (4) 募集活動の強化を図る。
 - (5) 常葉大学・短期大学部との進学連携の強化を図る
 - (6) コストの削減を図る。

■常葉大学・常葉大学短期大学部との高大連携方針

1. 教育における連携
 - (1) 連携を深める第一歩としての高校・大学（短大部含む。以下同じ）間の情報共有と相互理解
 - (2) 高校及び大学の人材の相互活用
2. 学生・生徒募集における連携
 - (1) 高校の大学附属化に伴う具体的なメリットの明示
 - (2) 附属高校から大学への進学実績の向上

■中高一貫教育指導方針

1. 中高一貫コースの教育目的
中高6年間教育の最終的な姿として、「国際感覚に富み、創造性豊かな思考力をもった人材（リーダー）の育成」
2. 中高一貫コースの教育目標
教育目的到達のための指標（教職員・生徒の行動目標）
 - (1) 高度な知的理解のもととなる「高い学力」を養成する。
 - (2) リーダー資質となる状況を的確に把握し問題点を「発見できる力」と問題に対するしっかりとした自分の考えを的確に「表現する力」を養わせる。
 - (3) 個人を越えた真理・美・価値に対する「感受性」と「共感力」を養わせる。
 - (4) 他者理解を深め、物事を多面的な視点から考えることができる本当の意味での「国際人」を養成する。
 - (5) 学習指導と人間教育の二本柱を意識し、英語数学の学習指導や「7つの習慣J」や総合学習での取り組みなど中高6年間の流れが継承できるようにする。

■中学校と橘小学校との小中連携方針

1. 小学校の教育目標や教育内容（特色教育を含む）について、中学・高校が十分に理解した上で、小学校の水準をさらに高め、発展させていくための9年間もしくは12年間を見通したカリキュラムを用意する。
2. 授業・研修・行事等を中心に教員の交流を図る（小学校と中学・高校の校舎が同一敷地内にあることや互いの教員が小・中・高の教員免許状を取得していることが望まれる）。
3. 児童・保護者のニーズを慎重に検討し、学園内進学の特長や小中連携の良さを知らせる。

4. 橋中に、「公立小からの入学生のコース」とは一線を画する「小中（高）一貫コース」を設け、カリキュラムを2本立てにすることについて検討する。

常葉大学附属菊川中学校・高等学校

■中期計画

1. 期間

平成28年度～令和2年度

2. 計画の骨子

- (1) 科・コースの特徴を生かし、効果的な指導を実践する。
- (2) 授業内容の充実（特に、発見学習・体験学習・問題解決型学習・調べ学習・プレゼン等の手法を取り入れた授業の実践）を図り、学力を定着させる。
- (3) 生活指導を重視し、事故やいじめや非行等を未然に防ぐ指導を行う。
- (4) 進路指導の充実を図る。（※常葉大学との連携強化）（※地域社会との連携強化）
- (5) 環境美化や公共物を大切にする指導を行う。
- (6) 防災や危機管理に関する指導を行う。（※地域社会との連携強化）
- (7) 学校行事・生徒会活動の充実を図る。
- (8) LHR・SHR を効果的に活用する。
- (9) 部活動の充実を図る。
- (10) 「自己評価」や「学校関係者評価」を活用し、生徒・保護者・同窓生・地域から信頼される学校づくりに努め生徒募集にも結びつける。

■長期計画

1. 期間

令和3年度～令和7年度

2. 計画の骨子

- (1) 学園内の小中、中高、高大の教育分野・募集分野での連携強化を図る。
- (2) それぞれの地域で地域貢献の推進を図る。
- (3) それぞれの特色ある教育の推進を図る。
- (4) 募集活動の強化を図る。
- (5) 常葉大学・短期大学部との進学連携の強化を図る
- (6) コストの削減を図る。

■中高一貫教育指導方針

1. 一貫Sコースの教育目的

校訓『より高きをめざして～「創造・礼節・自立」～』を具現化させ、礼儀を重んじ、自ら考え行動に移すことができる生徒を育成する。

2. 一貫Sコースの教育目標

- (1) 主体性・自発性や行動力を喚起させる様々な教育活動をコースとして企画・立案し、実践する。
- (2) 様々な教育活動に自ら積極的に参加することにより活動の喜びを体験させ、一貫Sコースの生徒としての自信と誇りをもたせる。
- (3) 「第一希望の進路目標」を達成させるために、6年間を見通した計画的な学習指導・進路指導を

実践する。

(4)「親しき仲にも礼儀あり」お互いにお互いを尊重し、認め合う成熟した友人関係の構築を図る。

(5)6年間で学んだことを将来に活かすことのできる、「再生可能な」知力・人間力の育成を目指す。

■中学校と橘小学校との小中連携方針

1. 小学校の教育目標や教育内容（特色教育を含む）について、中学・高校が十分に理解した上で、小学校の水準をさらに高め、発展させていくための9年間もしくは12年間を見通したカリキュラムを用意する。
2. 授業・研修・行事等を中心に教員の交流を図る。
3. 児童・保護者のニーズを慎重に検討し、学園内進学の特長や小中連携の良さを知らせる。

常葉大学教育学部附属橘小学校

■中期計画

1. 期間
平成28年度～令和2年度
2. 計画の骨子
 - (1)小中一貫教育の検討
小中9年間一貫した教育課程のあり方を検討する。
 - (2)創造的資質・能力の高い児童の育成
 - ① 私学ならではの特色ある教育を実践し、児童一人ひとりの付加価値を高める。
 - ② 知育・徳育・体育のバランスを図る。
 - ③ 本校の伝統「三方よし」を継続してその質をさらに高め、豊かな心と健康な体を育成する。
 - ④ 「自ら学ぶ力」で学力育成を図る。
 - ⑤ 英語科、オーケストラ学習、情報教育、日本文化教育のさらなる充実により、これからの社会に生きる資質を高める。
 - (3)教育研究小学校としての特色化を図る
 - ① 質の高い先進的な授業実践に努める。
 - ② 「教育研究発表会」の開催を通じて、教育研究の成果を外部に発信する。

■長期計画

1. 期間
令和3年度～令和7年度
2. 計画の骨子
 - <教育方針>
 - (1)小中一貫教育
 - (2)「豊かな心」「確かな学力」「逞しい心身」を兼ね備えた児童の育成
 - (3)学校の組織運営
 - <教育目標>
 - (1)めざす学校像
創立の精神にある「素直」「希望」「心豊か」「やりぬく」を入れた文言を検討する。

(2) 教育目標

【学校教育目標】生きる力を互いに高め合う児童の育成 … 三方よしの実践を通して

【重点目標】生きる力の具体を掲げる … 「豊かな心」「確かな学力」「たくましい心身」

■幼小接続

1. 教育における連携

- (1) 共通する建学の精神のもとで教育の連携や一貫性をさらに高める。
- (2) 幼稚園と小学校の教育方針や教育内容について相互理解を深める機会を増やす。
- (3) 学校関係者評価制度を活用し、幼小接続がスムーズに運ぶよう努める。

2. 募集における連携

- (1) 園児と児童との交流活動や保護者の参観の機会を増やすなどして、幼稚園と小学校の特徴や長所を相互に理解する。
- (2) それぞれの教育計画の中に交流・連携行事を組み込み、意図的・計画的に実施する。

■小中連携

1. 小学校から中学校の教育課程の内、英語科について小学校の英語学習を受け継ぎ発展できるような9年間のカリキュラムを編制し、高度なコミュニケーション能力の育成を図る。
2. 静岡市内の1中学校に「系列小中一貫英語コース」を設置して、1学級（20人）で育成する。さらに、高校のグローバルスタディーコースとの接続を図る。
3. 小中の連携を深めるため小中教員の人事交流を促進する。
4. 建学の精神を基本に中学3年生卒業時の目標を設定し、それを達成させるための各学年の目標を設定し小中の一貫性を図る。

■常葉大学教育学部との連携

1. 教育学部附属の研究実践校として、教育学部と本校で組織的な研究体制を作り、質の高い先進的な教育実践を行う。（常葉方式の授業）
2. 特別支援教育の視点から教育学部と連携をして組織的な支援体制を確立する。
3. 教育研究の成果を広く外部に問い、さらに高いレベルをめざすために「教育研究発表会」を開催する。
4. 大学院・大学の教育実習を「教育の質の充実」という観点でもとらえ、日常化を図る。

幼保連携型認定こども園常葉大学附属とは幼稚園・たちばな幼稚園

■中期計画

1. 期間

平成28年度～令和2年度

2. 計画の骨子

- (1) 地域の子育て相談など、地域が求める教育・保育活動の拠点園としての機能を果たす。
- (2) 学園内の各園・学校との連携を深め、時代の変化に応じた教育・保育の研究実践に努める。
- (3) 少子化時代に対応し、機能を推進する。
 - ① 長時間保育や保育年齢の拡大など、地域の保育ニーズに対応する。
 - ② 国や地方自治体が推進する子ども・子育て政策に対しても柔軟に対応する。

■長期計画

1. 期間

令和3年度～令和7年度

2. 計画の骨子

<教育方針>

- (1) 建学の精神に基づき、園生活や遊びの中で、環境を整え直接的、具体的な体験を通して、生きる力の基礎となる心情、意欲、態度の育成を目指す。
- (2) 園児一人一人が安心感と信頼感を持ち、園児の主体的な活動を大切に、乳幼児期にふさわしい生活が展開されるようにする。
- (3) 家庭や地域と園が十分な連携を図り、保護者の教育・保育に関する理解を深めるとともに、園における生活が家庭や地域社会との連続性を保ちつつ展開されるようにする。

<教育目標>

(1) 両園の教育目標

*ここは幼稚園「心豊かでたくましい子」

*たちばな幼稚園「美しい心 よく動く体 豊かな感性と社会性を持った子」

(2) 重点目標

- ① 発達や学びの連続性を踏まえ、乳幼児期にふさわしい教育・保育の充実を図る。
- ② 友だちや身近な人と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て人とかかわる力を育成する。
- ③ 子どもが安全な環境の下で、心と体を十分に働かせ、健康の保持及び増進を図るとともに、事故防止や災害等不測の事態に備えた態勢を整える。
- ④ 地域の自然、人材、行事や地域の学校・公共施設、学园内各学校などの教育的な資源を積極的に活用し、園児が豊かな生活体験が得られるようにする。

■常葉大学・常葉大学短期大学部との連携方針

附属園として、学生の教育実習や多様な研究協力の場を提供するとともに教員の資質向上のための研修交流を積極的に行い、教育・保育の発展充実を図る。

1. 学生の学外教育実習等の支援
2. 附属園教員の資質向上のための研修交流
3. 園の教育課程編成等への支援
4. 学校（園）評価への支援

■橋小学校との幼小接続方針

1. 教育における連携

- (1) 共通する建学の精神のもとで教育の連携や一貫性をさらに高める。
- (2) 幼稚園と小学校の教育方針や教育内容について相互理解を深める機会を増やす。
- (3) 学校関係者評価制度を活用し、幼小接続がスムーズに運ぶよう努める。

2. 募集における連携

- (1) 園児と児童との交流活動や保護者の参観の機会を設けるなどして、幼稚園と小学校の特徴や長所を相互に理解する。
- (2) それぞれの教育計画の中に交流・連携行事を組み込み、意図的・計画的に実施する。

法人本部

■ガバナンス充実のための基本方針

1. 目指すべき方向性
 - (1) 権限・責任の適切な委任
 - (2) 法人本部と学校現場との役割関係の明確化
 - (3) 役員と教職員の意識改革
2. 具体策
 - (1) 権限・責任体制の構築
 - ① 根拠規定と実態に基づく現状把握
 - ② 決裁権限と責任の所在の明確化
 - (2) 意思決定の迅速化と透明性の確保
 - ① 適切な決裁権限の委任
 - ② 意思決定の方法・手続の明確化
 - ③ 理事会の決定事項・理事長の意向・姿勢の共有化
 - (3) 効率的な管理運営の推進
 - ① 適切な事務職員の配置
 - ② 適切な組織の構築
 - ③ 研修の充実やOJTの励行などによる事務職員の能力開発、中間管理職の人材育成
 - ④ 長時間勤務の解消
 - (4) 適正な業務執行の構築
 - ① PDCAサイクル手法による業務の実践
 - ② 自己点検・評価システムの導入
 - ③ 自己チェックに対する教職員の意識改革
 - (5) チェック体制（内部統制）の構築
 - ① 内部統制に関する基本方針の策定
 - ② 内部監査体制などの構築
 - ③ 内部監査と監事監査・会計監査との連携

■コンプライアンス強化のための基本方針

1. 目指すべき方向性
 - (1) 先例踏襲意識からの脱却
 - (2) 法令や学園諸規程の遵守
 - (3) 役員と教職員の意識改革
2. 具体策
 - (1) 倫理・行動規範の策定とコンプライアンス推進体制の構築
 - (2) コンメンタールの整備
 - (3) 業務マニュアルの作成
 - (4) コンプライアンスチェック体制の確立
 - (5) 研修会の実施と参加

■建学の精神～建学の精神の再検証～

本学園には幼稚園から大学まで各種別の学校があり、学んでいる年齢層も幅広いため、建学の精神の

説明や継承は、各学校の裁量に委ねてきた。しかしながら3 中学・高校を附属化し、法人名も変更するこのタイミングを契機に、学生・生徒・児童・園児が共通理解でき、なおかつ外部へも発信していくことを意識し、次のとおり建学の精神の表現を再構築した。(平成29年3月)

より高きを目指して ～ Learning for Life ～

常に青々とした葉を繁らせ、純白な花を咲かせて黄金の実を結ぶ橘こそ、常葉の象徴。
美しい心を持ち、より高い目標に向かってチャレンジし、学び続ける姿勢こそ、常葉の精神。